

令和4年度入学試験問題

総合問題

注意事項

1. この問題冊子は試験開始の合図があるまで開いてはいけません。
2. この冊子は全部で16ページあります。
3. I , II , III , IV の全4問に解答してください。
4. それぞれの問題について解答用紙が配布してあります。この他に下書用紙も配布してあります。解答用紙には受験番号を記入する欄がありますが、下書用紙にはありません。間違えないようにしてください。
5. 受験番号は解答用紙の指定された箇所に記入してください。決して氏名を書いてはいけません。
6. 試験終了後、解答用紙を回収します。
7. 問題冊子と下書用紙は持ち帰ってください。

I

次の文章を読んで、以下の設問に答えなさい。(配点 100 点)

(Susan Bassnett, 'Travel Writing and Gender', in *The Cambridge Companion to Travel Writing*, ed. by Peter Hulme and Tim Youngs (Cambridge: Cambridge UP, 2002) より pp. 233-235。ただしスペリングはアメリカ式に準ずるなど、一部改変した箇所がある。)

語注

- *break free of ～から脱する, 自由になる
- *constraint 束縛
- *chafe at ～に苛立つ, じれる
- *domesticity 家庭生活
- *Isabella Bird イザベラ・バード(1831-1904)。英国の探検家, 紀行作家
- *psychosomatic illness 心因性の病気, 心身症
- *Mary Kingsley メアリー・キングズリー(1862-1900)。英国の探検家, 紀行作家
- *spinster 未婚女性
- *Lady Hester Stanhope ヘスター・スタンホープ(1776-1839)。英国の貴族であり冒険家
- *stifling 窒息させるような
- *Victorian codes of conduct ヴィクトリア朝(1837-1901)の厳格な道徳・行動規範
- *exhibitionism 自己顕示癖, 露出癖
- *notoriety 悪名高いこと
- *Sara Mills サラ・ミルズ。英国 Sheffield Hallam University の言語学名誉教授。著書に女性の旅行記やコロナリズムについての先駆的研究 *Discourses of Difference*(1991) など
- *precursor 先駆者
- *autobiographical 自伝的な
- *semi-invalid 半病人の
- *intrepid 恐れを知らない
- *hallmark 特徴
- *precipice 断崖
- *feat 偉業
- *woven weave(動詞:「織る」, 「(物語を)作り上げる」)の過去分詞
- *Royal Geographical Society 王立地理学会(RGS)
- *authenticity 信憑性, 真正であること
- *veracity 真実性, 正直さ

問 1 下線部①は何を意味しているのか。「彼女が待ち望んでいた」と考えられる理由を明らかにしながら、本文の内容に基づき、140 字以内で説明しなさい。(配点 30 点)

問 2 下線部②で示されるように、Sara Mills は「こうした解釈」(‘this kind of interpretation’)に問題があると考えている。‘this kind of interpretation’の内容を明らかにしながら、彼女の考える問題を 100 字以内で説明しなさい。(配点 40 点)

問 3 下線部③が示している内容の具体例を本文中から探し、100 字以内でまとめなさい。(配点 30 点)

Ⅱ 次の四国遍路の現状に関する文章を読んで、以下の設問に答えなさい。(配点 90 点)

四国遍路とは、真言宗の開祖、弘法大師(空海)ゆかりの寺院 88 カ所を巡る巡礼の旅のことで、江戸時代には僧侶による修行だけでなく、救済や現世利益を求める庶民にも広がったと言われている。一番霊山寺から八十八番大窪寺までの霊場(札所)を結ぶと約 1,200 キロメートルにもなり、これら全ての札所を徒歩で巡ると 40 日から 50 日かかる。

巡礼としてではなく、観光を目的に寺を参る人もいるため、巡礼者の正確な統計を取ることは困難である。しかし、札所へのアンケート結果から、10 年前と比べて巡礼者数が約 4 割減ったと推察する四国経済連合会の調査報告もある。巡礼者減少の結果、宿泊施設が廃業したり、巡礼路が廃れたりするなどの問題も生じている。加えて、何世紀にもわたって培われてきた、お遍路さんへ食べ物や飲み物を無償で施す「お接待文化」の担い手が減ることも危惧されている。

徒歩巡礼者数の統計については、NPO 法人「遍路とおもてなしのネットワーク」の遍路大使任命数のデータが参考になる。同法人は 2004 年から、88 カ所全ての札所を徒歩や自転車で巡った人を遍路大使として任命しており、そのかわり、国籍も含めた統計を取ってきた。表 1 は隔年ごとの遍路大使の任命数である。このデータを見ると、徒歩巡礼者の総数に大きな変化はないが、外国人比率が増加していることが分かる。2019 年度については、新型コロナウイルス感染症対策に伴う移動制限の影響を受け、任命総数、外国人任命数ともに減少したものの、全体の潮流としては外国人の割合が高まり続けているといえるだろう。

巡礼の移動手段は徒歩だけではない。戦後には団体バスによる巡礼ツアーが始まり、高速道路網の整備に伴ってマイカー巡礼も盛んになるなど、巡礼の移動手段は多様化している。このような巡礼の移動手段の変化は、巡礼の意味を変える可能性もある。表 2-1 は、移動手段(バス・徒歩)別の「巡礼中に充実感を感じたとき」の集計結果である。調査は、回答選択肢の中から自身の考えに当てはまるものを複数回答してもらっているため、回答度数の合計が回答者の数を上回っている。表 2-2～2-5 は、移動手段と充実感を感じるときの関係を明確に示すため、表 2-1 をもとに、「その他(h)」「無答(i)」を除いた上で様々なパターンでの構成

比率を算出したものである。なお四捨五入の関係で各数値を足し合わせても 100%にならないものもある。

これらの統計資料からは、巡礼という行為の意味づけが移動手段によって異なっていることが推察される。

表 1 遍路大使任命数(隔年)

年度	開始日	最終日	任命総数 (人)	外国人任 命数(人)	外国人 比率(%)
2005 年度	2005 年 7 月 1 日	2006 年 6 月 30 日	1,990	34	1.7
2007 年度	2007 年 7 月 1 日	2008 年 6 月 30 日	3,067	44	1.4
2009 年度	2009 年 7 月 1 日	2010 年 6 月 30 日	2,859	78	2.7
2011 年度	2011 年 7 月 1 日	2012 年 6 月 30 日	2,478	79	3.2
2013 年度	2013 年 7 月 1 日	2014 年 6 月 30 日	2,581	129	5.0
2015 年度	2015 年 7 月 1 日	2016 年 6 月 30 日	2,554	221	8.7
2017 年度	2017 年 7 月 1 日	2018 年 6 月 30 日	2,503	416	16.6
2019 年度	2019 年 7 月 1 日	2020 年 6 月 30 日	1,419	206	14.5

(「遍路とおもてなしのネットワーク」のサイトで公開されているデータをもとに作表。集計は 6 月 30 日を区切りとしており、例えば 2005 年度のデータは 2005 年 7 月 1 日から 2006 年 6 月 30 日までの 1 年間である。)

表 2-1 移動手段別の充実感を感じたとき(回答度数)

	バス	歩き	合計
回答者数	107 人	92 人	199 人
a) 僧侶や先達の話聞く	51	16	67
b) 霊場でのお参りやそれをすませたとき	57	37	94
c) 遍路仲間と話すとき	36	43	79
d) 霊場・山門に着いたとき	9	41	50
e) お接待や親切に触れたとき	20	64	84
f) お大師様と共に歩いていると感じたとき	52	27	79
g) 長い道中を顧みるとき	0	35	35
h) その他	1	6	7
i) 無答	5	0	5
合計	231	269	500

(「愛媛県生涯学習センター 遍路のころ(平成 14 年度)」のサイトで公表されているデータをもとに作表)

表 2-2 移動手段別充実感を感じたとき
(行集計比率)

	バス	歩き	
a)	76%	24%	
b)	61%	39%	
c)	46%	54%	
d)	18%	82%	
e)	24%	76%	
f)	66%	34%	
g)	0%	100%	
合計	46%	54%	100%

表 2-3 移動手段別充実感を感じたとき
(列集計比率)

	バス	歩き	全体
a)	23%	6%	14%
b)	25%	14%	19%
c)	16%	16%	16%
d)	4%	16%	10%
e)	9%	24%	17%
f)	23%	10%	16%
g)	0%	13%	7%
合計	46%	54%	100%

表 2-4 移動手段別充実感を感じたとき

(全体集計比率)

	バス	歩き	全体
a)	10%	3 %	14%
b)	12%	8 %	19%
c)	7 %	9 %	16%
d)	2 %	8 %	10%
e)	4 %	13%	17%
f)	11%	6 %	16%
g)	0 %	7 %	7 %
合計	46%	54%	100%

表 2-5 移動手段別の充実感を感じたとき

(当てはまると回答した人の割合)

	バス	歩き
a)	48%	17%
b)	53%	40%
c)	34%	47%
d)	8 %	45%
e)	19%	70%
f)	49%	29%
g)	0 %	38%

問 1 下線部について、仮に新型コロナウイルス感染症対策による移動制限の影響がなく、2017 年度から 2019 年度の外国人任命数増加率が 2015 年度から 2017 年度の増加率と同じであったとすれば、2019 年度の外国人任命数の比率は何%になったであろうか。小数点以下第一位まで求めなさい。なお、任命総数はこの 10 年間 2,500 人前後で推移していることから、2019 年度の任命総数を 2,500 人と仮定して計算しなさい。(配点 10 点)

問 2 表 2-2～2-5 の中から、移動手段と充実感を感じるときの関係を伝えるのに最適な表を一つ選び、それをもとに適切で分かりやすいグラフを作成しなさい。なお、解答用紙のマス目を利用し、定規などを使う必要は無い。(配点 30 点)

問 3 問 2 で作成したグラフをもとに、移動手段の違いによる充実感を感じるときの特徴について読み取れる事実を述べなさい。その上で、移動手段の違いによる充実感の違いがなぜ起こると考えられるか推察しなさい。300 字以内でまとめること。(配点 50 点)

Ⅲ 次の文章(ブログ記事)を読んで、以下の設問に答えなさい。(配点 90 点)

×年×月×日

今日のブログは、少し長くなりそうだ。

時事問題が、私たち人間の営為にスポットライトを当て、人間というものの在り方自体を考えさせてくれる機会になることがある。

近時「社会の分断」ということが、多く語られるようになった。社会に異なる意見の存することは、むしろ当然のことだと思うが、その意見対立が分断にまでは広がらないような調整が、権力者や権力機構には求められるところである。しかし、最近ではむしろ分断を煽るような政治家の発言も少なくない。

社会の分断とは、異なる思想的領域に移動することで、相互理解や相互交流が行われなくなる／行われにくくなる現象が苛烈化したものとイメージできるが、そのような現象が生じる要因は何だろうか。先に「思想的領域」と書いたが、私は「思想」とは読書も含め個人的経験から導かれる、すぐれて個人的なものと漠然と考えていた。しかし、次の2つの対談(【A】と【B】)を通して、いろいろと考えさせられた。後日のため、ここに引用しておく。

まずは【A】から。進化生物学者ジャレド・ダイアモンド氏へのインタビュー対談記事である。

【A】

—

(初出は、2020年9月20日『クーリエ・ジャポン』に掲載された、ジャレド・ダイヤモンド「危機を乗り越えられる国、乗り越えられない国の違いは何か」。直接の引用は、クーリエ・ジャポン編(2021)『新しい世界：世界の賢人16人が語る未来』講談社現代新書(原文縦書き)、pp. 52-54で、引用部分だけで理解可能なように一部改変した。)

空間的に「移動」する、という具体的行動と「社会的分断」との間に直接的関係があるとは考えられないものの、その二つの間に介在する別の何かが関連している可能性を指摘している。頻繁かつ大きな移動が行われやすいということと、歩み寄る行動が行われにくいことと関係するのだろうか。

次の【B】は、コンピュータ検索のアルゴリズムが視聴者の思想まで左右しかねない問題を扱ったテレビ番組でのインタビュー対談で、コンピュータ・プログラマーのギヨーム・シャスロット氏へのインタビューである。

【B】

(BS朝日[2021年4月8日放送])『町山智浩のアメリカの今を知るTV in Association with CNN』でのインタビュー映像部分の書き起こし。)

【B】の話から、私がまず思ったことは、個人的志向もしくは嗜好と考えられるものが、その実、社会や時代を離れて存在しうるものではない、ということの再確認だった。自分の生育環境・社会で培ったものから自由になることは容易でないことは、頭では分かっているつもりでも、ふだんは無意識下に置かれがちだ。ここでは、われわれ現代人は、異なる生育環境・社会環境から生じる差異を増幅する仕組みの中にいる、ということが指摘されている。

これらの指摘は、大きな偏差を生じさせる機構が、知らぬ間に現代社会に組み込まれている可能性を示しているように思える。だとすると、さまざまな社会的格差がなかなか是正されないことも、SNSですぐに炎上が起きることも、これらに起因しているのだろうか。ここで指摘されていることがどこまで正鵠を射ているのか、にわかには判らないが、考えるべき問題であろう。

問1 この文章では「社会の分断」という現象と、一見、直接的関係のないと思われる現象がどこかでつながっている可能性のあることが、問題として扱われている。下線の視点を参考にして、あなたが「社会の分断」につながる可能性があると考える現象を、そのつながりがよくわかるよう、400字程度で論理的に説明しなさい。(配点 80 点)

問2 問1で答えた説明文に、25字以内で収まる適切なタイトルをつけなさい。

但し最後は「…と社会の分断」とすること。(なお、本設問は、問2だけの解答や、問1が途中で終わっている解答の場合は採点対象となりません。)

(配点 10 点)

Ⅳ Ⅰ～Ⅲでは、旅行・巡礼・移住など、個人による様々な形態の「移動」や、その意味が論じられているが、移動のあり方をめぐる価値観は、今後どのようなものになるだろうか。Ⅰ～Ⅲの文章の少なくとも1つを参考にして、あなたの考えを500字以内で述べなさい。ただし、参考にした点が何かわかるように文章内で必ず触れること。(配点 120 点)

